

脳性麻痺児と在宅医療の困難な重度障害児との疫学的検討

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究)

研究協力者 鈴木文晴*
共同研究者 石崎朝世**
児玉和夫***

要約：東京都多摩地区の某市において、1985年から89年までの5年間における出生児6,772名における心身障害児の罹病率を検討した。罹病率（出生千当り）は以下の通りであった。脳性麻痺1.9、在宅困難な重度障害児0.74、神経疾患関連の乳児死亡0.89。心身障害児のあらたなる発生はまだまだ多く、特に出生前の原因による例が多い。今後一層の研究が必要である。

見出し語：epidemiology, cerebral palsy, severe retardation

研究方法：本市（人口13万余）における1985-89年の5年間の出生児を対象に、保健所の母子カード、医療機関、通園施設、市役所、児童相談所など多数の機関を経由して心身障害児—脳性麻痺、在宅困難／不可能な重度障害児、神経関連の乳児死亡—の発生を調査した。

結果：出生児総数6,772名、確認された症例は、脳性麻痺症例13例、在宅困難／不可能な重度障害児5例、神経関連の乳児死亡6例であった。罹病率は各々出生千当り、1.9、0.74、0.89であった。

脳性麻痺の原因は7/13 = 56%がで出生前の

原因、そして早産未熟児と満期成熟児とが各々3/17 = 23%であった。

在宅困難／不可能児5例中4例が脳性麻痺であった。5例中3例はその生存期間中一度も自宅に戻ることができない状態であった。5例中3例が2-3歳の時点で死亡していた。残る2例は2歳現在病院にて人口呼吸器による呼吸管理下で生存している。

神経関連の乳児死亡は、重症仮死分娩によるばあいと、極小未熟児との場合であった。

考案：1. 脳性麻痺の罹病率は低下傾向にあると本邦で報告されているが、必ずしもそのよ

-
- * 国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科：Division of Child Neurology, National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Disorders.
 - ** 東京都立府中療育センター小児科：Dept. of Pediatrics, Tokyo Metropolitan Fuchu Rehabilitation Center.
 - *** 心身障害児総合医療療育センター小児科：Dept. of Pediatrics, National Rehabilitation Center for Disabled Children

うに楽観できない。特にで出生前の因子による脳障害についての研究が重要である。

2. 在宅困難／不可能な重度障害児について、NICUから地域の医療機関・保健所へのネットワーク作成が急務である。

文献：

- 1) Hagberg B, et al .Acta Paediatr Scand 1975 ; 64 : 187 - 92.
- 2) Hagberg B, et al .Acta Paediatr Scand 1975 ; 64 : 193 - 200.
- 3) Stanley FJ. Develop Med Child Neurol 1979 ; 21 : 701 - 13.
- 4) 藤井とし.小児科臨床 1983 ; 36 : 1726 - 32.
- 5) 落合靖男.小児科臨床 1983 ; 36 : 1736 - 6.
- 6) 児玉和夫.小児科臨床 1983 ; 36 : 1737 - 43.
- 7) Hagberg B, et al .Acta Paediatr Scand 1984 ; 73 : 433 - 40.
- 8) Hagberg B, et al .Acta Paediatr Scand 1989 ; 78 : 283 - 90.
- 9) Takeshita K, et al Neuroepidemiology 1989 ; 8 : 184 - 92.
- 10) 鈴木文晴.脳と発達 1990 ; 22 : 539 - 45.

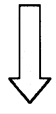
表1 年間出生数、神経疾患関連の乳児死亡数、脳性麻痺、在宅困難な重度障害児の発生状況

生 年	出生数	神経疾患関連の 乳児死亡*	脳性麻痺	在宅困難な 重度障害
1985	1,333	2	1	0
1986	1,405	0	5	1
1987	1,382	3	3	1
1988	1,392	1	1	1
1989	1,260	0	3	2
合 計	6,772	6	13	5**
	罹病率 (出生千あたり)	0.89	1.9	0.74

* : 全例が周生期障害による脳障害またはその疑いの強い例である。
** : 5例中1985 - 87年生まれの3例が現在までに死亡している。

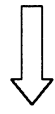
表2 脳性麻痺13例の病型分類・病因

病 型	病 因	症 例 数
痙性対麻痺	早産未熟児	1
	成熟児、出生前の因子	1
痙性両麻痺	早産未熟児	2
	成熟児、出生前の因子	1
痙性片麻痺	成熟児、出生前の因子	2
痙性四肢麻痺	成熟児、出生前の因子	3
	成熟児、周生期障害	3
合 計		13



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:東京都多摩地区の某市において、1985年から89年までの5年間における出生児6,772名における心身障害児の罹病率を検討した。罹病率(出生千当り)は以下の通りであった。脳性麻痺 1.9、在宅困難な重度障害児 0.74、神経疾患関連の乳児死亡 0.89。心身障害児のあらたなる発生はまだまだ多く、特に出生前の原因による例が多い。今後一層の研究が必要である。